

# 発電所内のモニタリング状況等について (1～3号機放水路の状況、地下貯水槽の状況について)

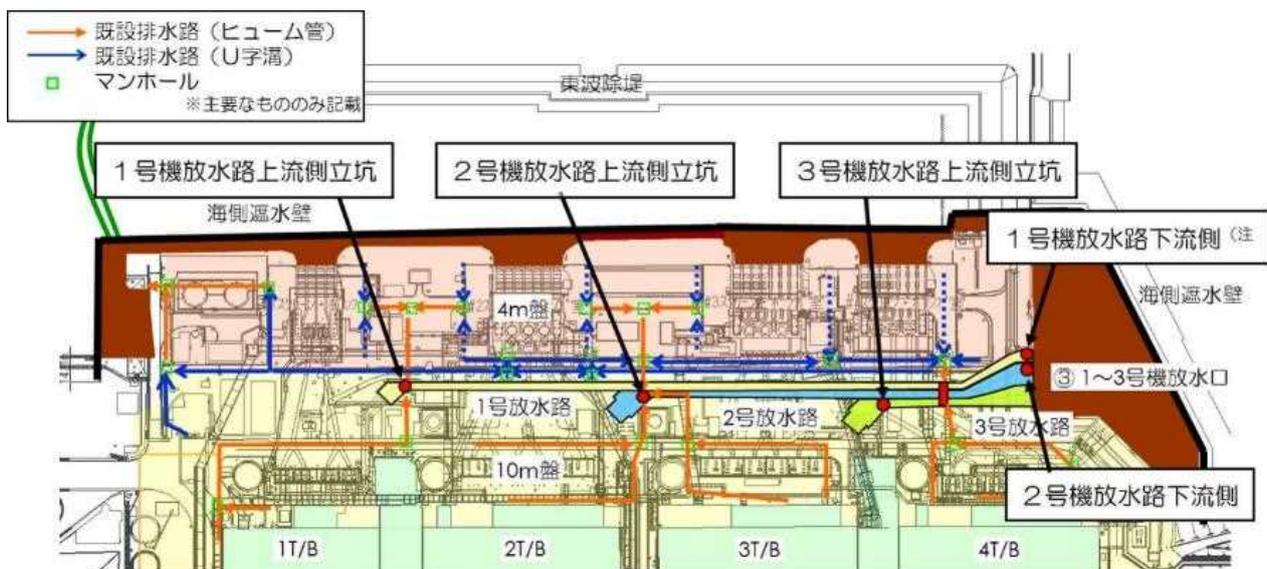
2017年7月27日



## 東京電力ホールディングス株式会社

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

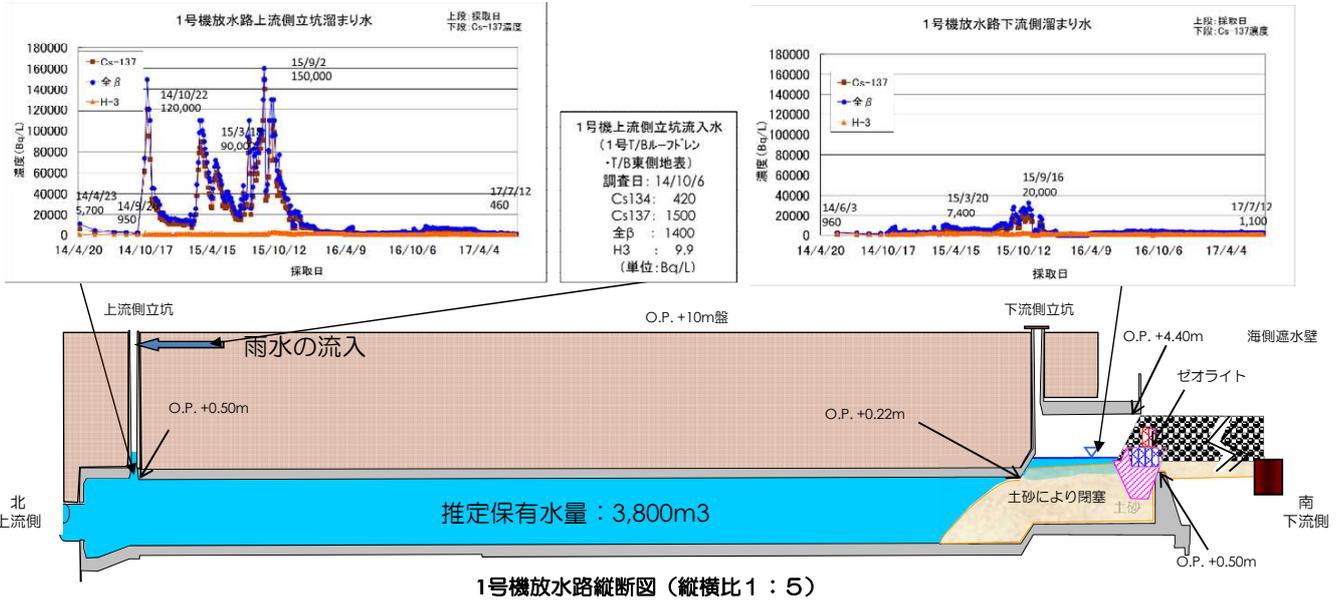
### 1～3号機放水路及びサンプリング位置図（平面図）



注:ゼオライト土のう設置(2月)以降、放水口から下流側立坑へのアクセス不可のため、放水口上部より採水

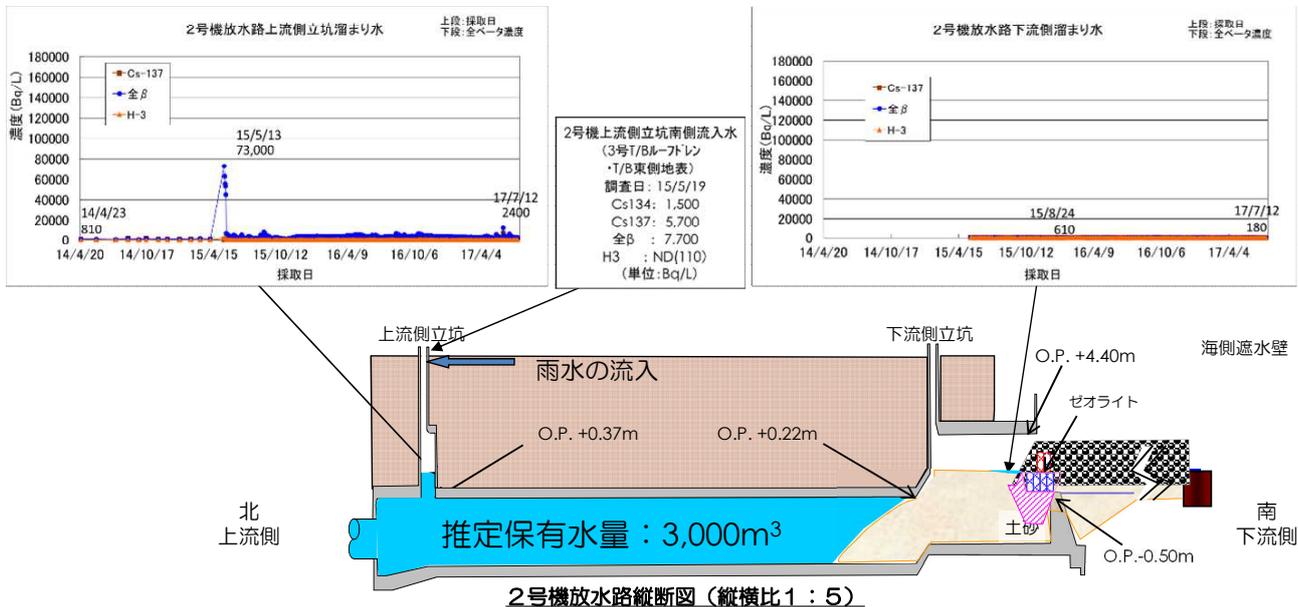
# 1号機放水路サンプリング結果

- 上流側立坑たまり水のセシウム137濃度は、昨年11月に7000Bq/L前後まで上昇したが、その後低下し、現在は1000Bq/L前後で推移。
- 下流側の溜まり水のセシウム137濃度には、上昇傾向は見られていない。当面監視を継続。
- 放水路浄化装置は停止中。

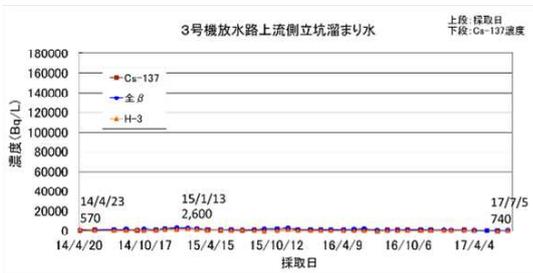


# 2号機放水路サンプリング結果

- 2号機放水路上流側立坑の溜まり水の全ベータ濃度は、2015年5月に上昇が見られたが、その後は、降雨時に一時的にセシウム濃度の上昇に伴って上昇する可能性があるものの、現在は2,000~3,000Bq/L程度で推移。
- 6月2日には12,000Bq/Lに上昇したが、セシウム137濃度も6,400Bq/Lまで上昇しており、サンプリング直前に降った降雨による影響と考えられる。
- 下流側 (放水口) の濃度は低濃度で、上昇は見られない。

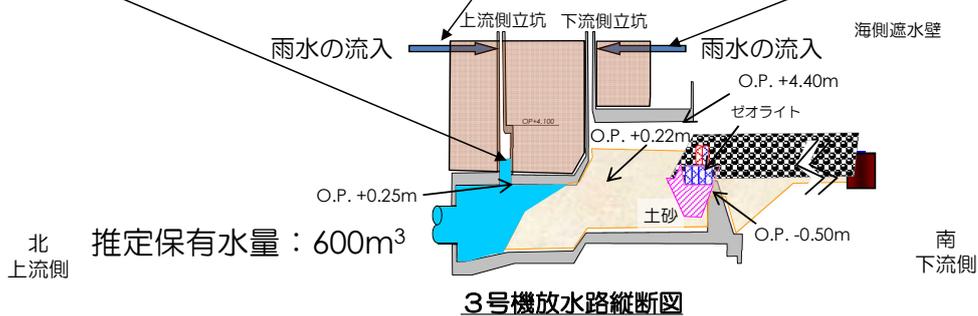


- 3号機放水路上流側立坑溜まり水のセシウム濃度は、降雨により若干の上下はあるものの、現在は1,000Bq/Lを下回る濃度で推移。
- 引き続きモニタリングを継続する。



3号機上流側立坑流入水 (3号S/ブルーポート)・T/B東側地表)	
調査日:	14/6/12
Cs134:	1,400
Cs137:	4,100
全β:	4,800
H3:	ND(9.4)
(単位: Bq/L)	

3号機下流側立坑流入水 (4号T/B建屋周辺雨水)	
調査日:	14/6/12
Cs134:	1,000
Cs137:	2,800
全β:	3,900
H3:	13
(単位: Bq/L)	



### 地下貯水槽No.1～3周辺の地下水モニタリングの状況

- 地下貯水槽No.1～3は、2013年4月に漏洩が確認されて以降、モニタリングを強化し、監視を継続中。
- 昨年3月以降、周辺観測孔で全β濃度の検出が見られたことから、さらに採水頻度を増やして監視を強化したが、濃度の上昇は一時的で、短期間に低下。昨年10月以降は、ほとんど不検出。
- 残水のあった地下貯水槽No.2についても、3月16日に水抜き※を完了したことから、4月より観測頻度を見直して監視を継続中。  
※ポンプ汲み上げ可能レベルまで水抜き
- 未使用の地下貯水槽No.5の撤去作業を3月28日より開始し、6月26日に完了。



図 地下貯水槽の位置

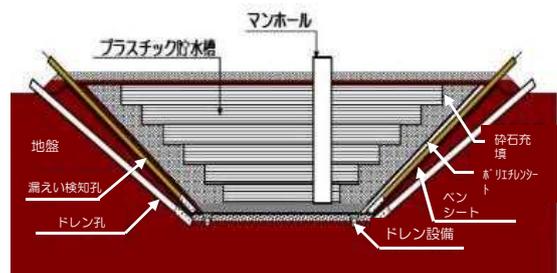


図 地下貯水槽の構造

- 地下貯水槽No.1～3の周辺観測孔については、4月より観測頻度を月1回に戻して監視を継続。4グループに分け、毎週4～5孔を採水、分析する。
- 5月以降も、全β濃度の検出は見られるが、連続して濃度が上昇するような傾向は見られない。

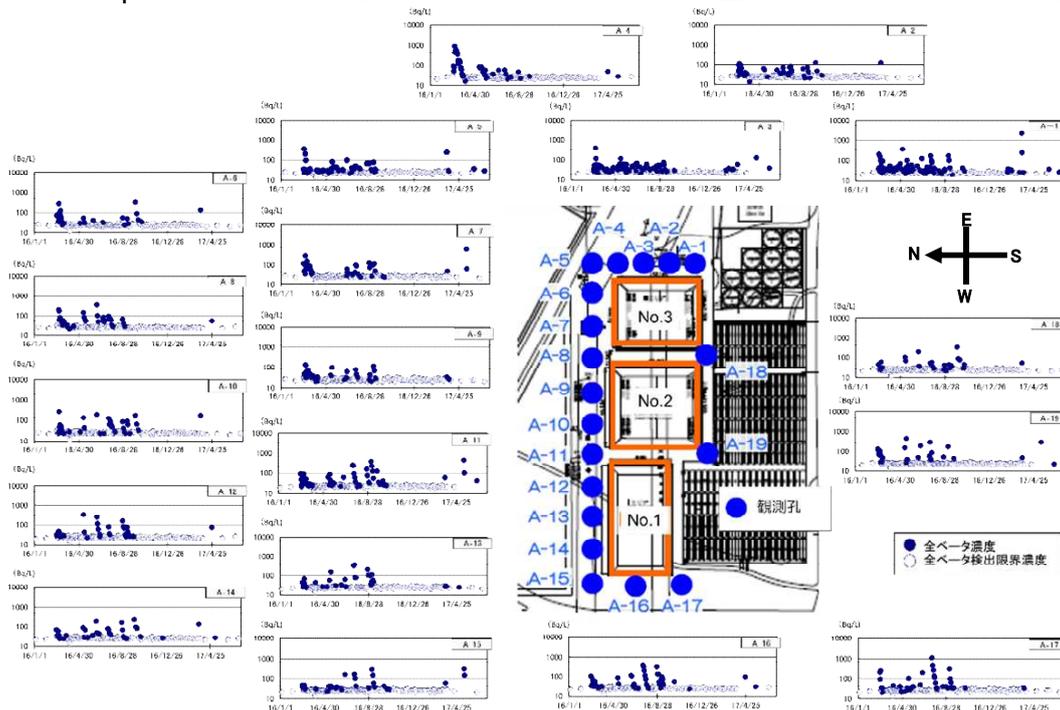
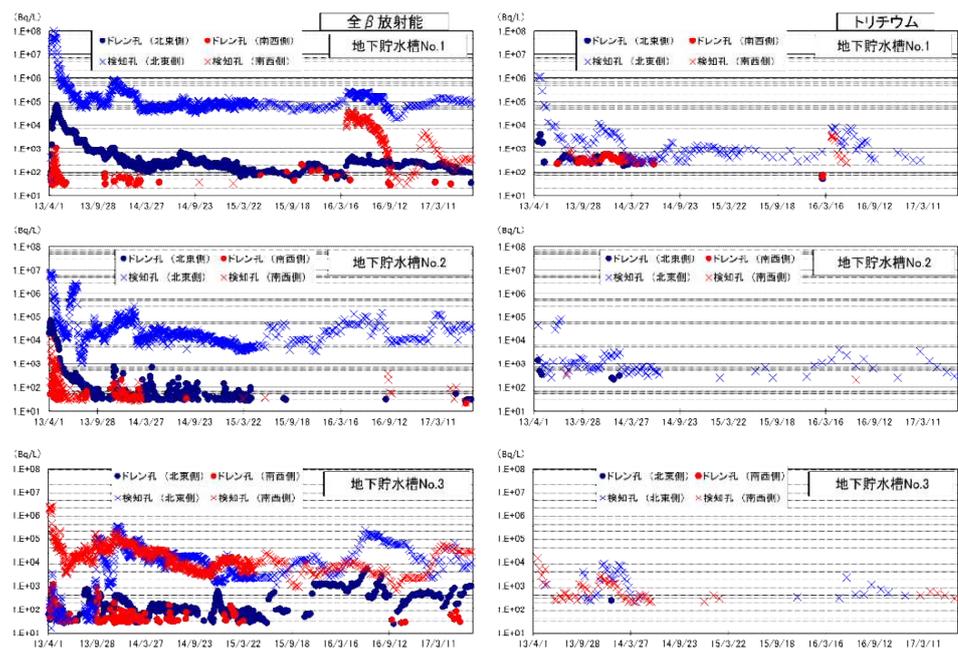


図 地下貯水槽No.1～3周辺観測孔の全ベータ濃度（2016年1月～）

- 昨年4/6に、地下貯水槽No. 1の南西側検知孔において全ベータ、トリチウム濃度が上昇したものの、その後もドレン孔の濃度に大きな変化は見られていない。
- 地下貯水槽No. 2では、北東側検知孔のみ変動がみられるが、ドレン孔に変化は見られない。

- 地下貯水槽No. 3でも、検知孔の全ベータ濃度に変動が見られたが、ドレン孔の濃度には大きな変化は見られない。
- 3月に地下貯水槽No.2の貯留水を移送し、地下貯水槽No.1～3にはほとんど残水の無い状態。
- 監視を継続する。



注 検出された場合のみプロット

図 地下貯水槽No.1～3のドレン孔、検知孔の放射性物質濃度（2013年4月～）

- 地下貯水槽No.6は、これまでに漏えいは確認されていないが、2013年の地下貯水槽No.1～3の漏えい時に一時的に汚染水を貯蔵したことから、周辺観測孔3箇所においてモニタリングを継続中。水抜きは完了済み。
- 4月21日のサンプリングにおいて、全ベータ放射能濃度を検出。翌日の再サンプリングで濃度の低下を確認。
- 5月、6月のサンプリングでは更に濃度が低下。
- 引き続きモニタリングを継続する。

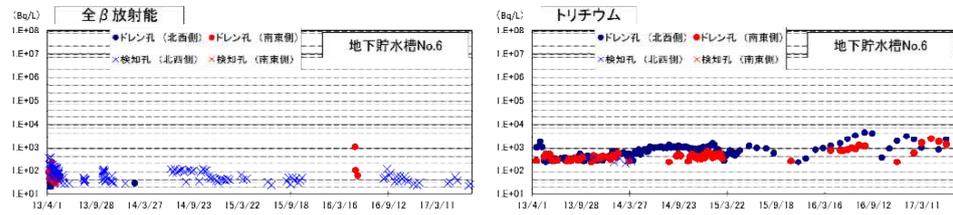


図 地下貯水槽No.6ドレン孔、検知孔の放射性物質濃度（2013年4月～） 注 検出された場合のみプロット



図 地下貯水槽No.6周辺観測孔の放射性物質濃度（2013年4月～）

【参考】地下貯水槽No.5（未使用）の解体、撤去状況

- 未使用の地下貯水槽No.5の解体作業を、3月より行ってきたが、6月26日に解体を完了。



写真1 2017年4月10日撮影



写真2 2017年6月8日撮影



写真2 2017年7月11日撮影